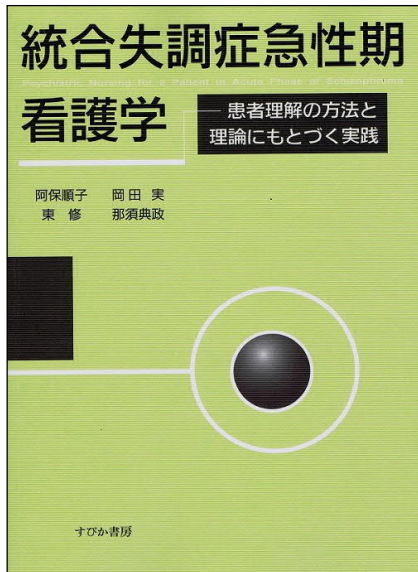


統合失調症急性期看護学



ISBN978-4-902630-30-5

患者理解の方法と理論にもとづく実践

阿保順子 岡田実 東修 那須典政 [共著]

B5判 2色刷 176頁

定価 (本体 2500円+税)

統合失調症の看護が「わかる」本として読み継がれてきた『統合失調症急性期看護マニュアル』を刷新。理論以前の基本的に重要な倫理、処遇、治療、実践知について必須事項を補充し、総合的な学習ニーズに応える内容に生まれ変わった。それに合わせて書名一新。

精神科の専門的実践を支える看護「学」書の誕生！

“精神構造と保護膜”理論の決定版！

■主要目次

序章 精神科看護の現在を問う:精神医療と看護、この50年をかえりみて I 統合失調症急性期看護学総論 第1章 回復過程としての統合失調症急性期:中井久夫“寛解過程論”による 1 統合失調症の急性期とは 2 統合失調症の経過 3 病歴;急性状態の患者背景 4 臨界期のケアの重要性 第2章 精神科救急あるいは外来受診患者の入院 1 救急と入院:患者の受け入れ 2 患者へのアプローチ 3 行動制限に伴う法的根拠 4 薬物療法 第3章 統合失調症急性期看護の基本:精神科看護の専門的常識 1 望ましい入院 2 治療的接近の原則 3 家族に対するケア 4 看護師自身のストレスへの対処 II 統合失調症急性期看護の展開:“精神構造と保護膜”の理論 第4章 患者理解の方法 1 「精神構造」モデル 2 発病:精神構造による解釈① 3 統合失調症急性期の患者理解:精神構造による解釈② 4 臨界期の精神構造 5 寛解期前期から後期の精神構造 6 精神構造モデルの理論的広がり 第5章 看護の原則:統合失調症急性期看護の実践を導く理論 1 保護膜という考え方 2 統合失調症急性期看護の原則:“精神構造と保護膜”の理論 【原則1】患者が自ずと張っている保護膜をはぎ取らない 【原則2】患者の外側から保護膜を張る 【原則3】患者の内側から保護膜が張られていくことを妨げない 第6章 回復過程に沿った看護の実践:看護方針と具体策 1 発病時(急性状態)の看護 2 臨界期の看護 3 寛解期の看護 コラム-1 徘徊や自閉・引きこもりの意味 -2 臨界期の期間 -3 臨界期における療養の場 III 統合失調症急性期看護事例集:精神構造の解釈と看護の実践 事例-1 幻覚・妄想に支配され、自らの言動をコントロールできなくなった患者 -2 思考の混乱により疎通性に障害のある患者 -3 躁状態で、感情のコントロールが困難な患者 -4 引きこもりから、亜昏迷・昏迷状態をきたした患者 -5 陽性症状が表面的には目立たないが、幻聴が活発な患者 -6 興奮が激しく攻撃的で、治療・ケアに抵抗が強い患者 -7 焦燥感や不安から自殺企図に及んだ患者:臨界期の看護 -8 急性状態は治まって退院したが、幻聴に悩まされて再入院に至った患者:寛解期の看護 -9 激しい妄想を抱きながら1人で暮らしている患者:訪問看護でのかわり① -10 長年1人暮らしで生活は自立できているように見えるが、実際は幻聴が激しく必需品の買い物にも支障をきたしている患者:訪問看護でのかわり②

2021.9

◆共著者:あぼじゅんこ(長野県看護大学名誉教授) おかだみのり(岩手保健医療大学教授) あずまおさむ(佐久大学看護学部准教授) なすのりまさ(林下病院看護部長)

★書店でお買い求めください。専門書店以外では棚にない場合が多いと思いますが、お取り寄せは必ず可能です。

★直接注文も承ります。郵便、FAX、電話、Eメール chumon@spica-op.jp 等でお申し付けください。ホームページでもご案内しています <http://www.spica-op.jp> (送料:200円、2冊以上同時注文は無料)

裏面を注文票としてご利用ください。

【注文票】

*書店を通される場合にも本票を利用されると確実です。ご利用の書店にお渡しください。

*記入済みの本票の画像を添付して chumon@spica-op.jp宛送信していただいても結構です。

すぴか書房 宛 FAX 048-464-8336

書名	統合失調症急性期看護学		冊 注文します
	患者理解の方法と理論にもとづく実践 阿保順子 岡田実 東修 那須典政 [共著] ISBN978-4-902630-30-5 本体 2500 円+税		
発行所	〒351-0114 和光市本町 2-6 レインボープラザ 602		日付
すぴか書房	TEL 048-464-8364		
お客様 (お届け先)	ご住所 〒		
	フリガナ お名前	電話番号(必ず記入してください)	
		メール:	

【備考欄】

*小社へのメッセージ、出版活動へのご意見・ご希望などの通信欄として自由にお使いください。また、
関心のあるテーマについてお聞かせいただけましたら幸甚に存じます。